

「仁淀川の森と水を考えるシンポジウム」 ～豊かな海、豊かな川は、健やかな森、山から始まる～

(主催：仁淀川漁業協同組合、共催：仁淀川流域交流会議、仁淀川清流保全推進協議会)

10月12日（日）、仁淀川漁業協同組合主催でシンポジウムが開催され、約80名が参加しました。

同組合では、長年にわたり河川の生物多様性の保全に向け、山の保水力、水質ろ過能力などの自然流状況の復元、植樹活動などを通じて「森、山の重要性」を訴えてきました。今回は、仁淀川清流保全推進協議会会長で水生生物研究家の石川妙子先生から「底生動物から見た仁淀川の変化～魚を支える川虫の役割～」と題した基調講演と、国、県、流域7市町村の首長が「仁淀川～これからの仁淀川に私たちができること～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

基調講演では、川虫が川の生態系に与える影響や、生き物たちにとって住みやすい川とはどのような環境なのかについて、ご講演いただきました。また、川に生息するさまざまな川虫の種類とそれぞれの特徴や川虫が多く生息する環境の特徴などについて、水質調査結果や川虫の写真などのデータを交えてわかりやすく解説いただきました。

パネルディスカッションでは、まず、仁淀川漁業協同組合の吉村組合長から、仁淀川が現在抱える課題について課題提起が行われた後に、国、県、各流域市町村が日々取り組んでいる事業について、それぞれスライドを用いて紹介が行われました。

基調講演とパネルディスカッションを通じ、仁淀川の自然環境や生態系を支える重要な要素についての知見が共有され、さらに地域の課題解決に向けた取り組みが議論されました。

令和7年11月5日に、【第2弾】川という自然の理解講座を開催しました。（第1弾（7/23、7/24開催）については8月7日の投稿で紹介しています。）水生生物の採集に先立ち、講師から採り方の説明があり、その後、実際に川に入り採集を行いました。水温は14.5度と寒い中での実習となりましたが、参加者の皆さんが積極的に取り組み、どのような水生生物が採れたか、どこに生息していたかなどについて、活発に意見交換をしながら採集を行っている様子が印象的でした。

採集後は、全員で水生生物の特徴を確認しながら分類作業を行い、ヒラタカゲロウやヘビトンボなど、約11種類の水生生物が確認できました。座学では、講師から採集した水生生物の身体の特徴と生息場所の関係について説明があり、水生生物が川の環境に与える影響や、河川ごとの環境の違いについても学びました。

また、河川環境に配慮した活動のあり方や環境整備についても説明があり、身近な事例を用いた解説により、さらに理解が深まりました。

